

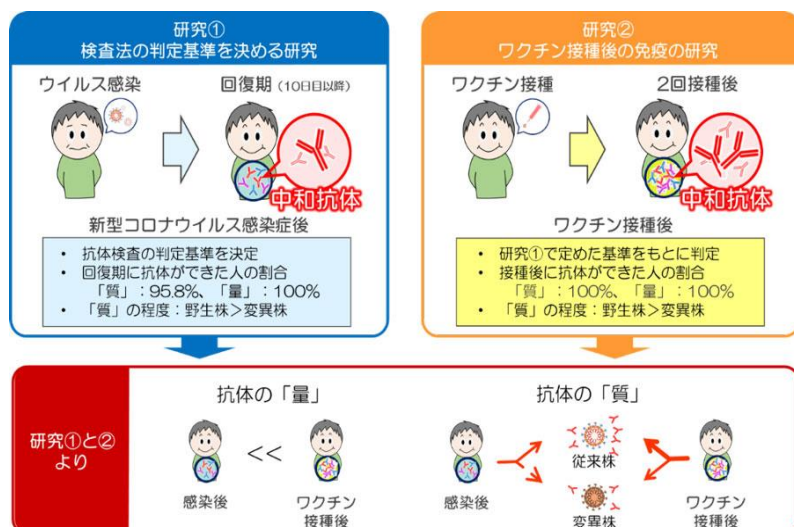
# 新型コロナワクチン 特集号②

No. 260 R3. 7. 15 発行 如春会 浦田医院

コロナワクチンの接種開始から2か月  
～コロナ対策を支える成果～

富山大学学術研究部医学系 微生物学講座・感染症学講座らによる研究グループは、中和抗体評価法（GRNT法）を活用して、新型コロナウイルス感染症発症後とワクチン接種後の免疫獲得状況を明らかにしました。

新型コロナウイルスは、ウイルス表面にあるスパイク蛋白が私たちの細胞表面にある受容体に結合して感染します。ウイルスへ感染するかワクチンを打つと抗体ができますが、抗体には中和抗体とそれ以外の抗体があります。中和抗体を調べることで、ウイルスの感染を阻害する働き、つまり抗体の「質」を知ることができます。また、ウイルスのスパイク蛋白に対する抗体の「量」を測定する検査がありますが、日本ではまとまったデータがありません。そこで、感染後とワクチン接種後の抗体の「質」と「量」について調べました。



## ① 検査法の判定基準を決める研究

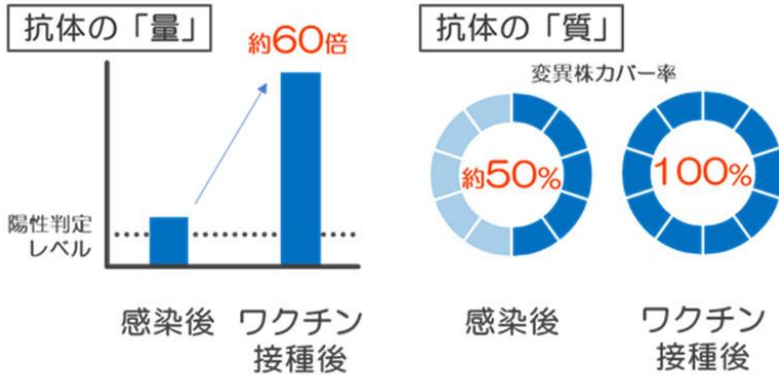
- 482名の協力で抗体検査の判定基準を定めました。  
(於：富山大学付属病院、富山市民病院)
- 抗体の「量」と「質」は相関する関係であることがわかりました。
- 感染10日目を過ぎて抗体の「質」と「量」が基準を上回った人は、それぞれ95.8%と100%でした。
- 従来株への抗体の「質」が確かめられた中で、約半数は変異株（英国型と南アフリカ型）への「質」が基準を下回っていました。
- 感染10日目以降の人での抗体「量」の中央値は30.5U/mLでした。

## ② ワクチン接種後の免疫の研究

- ①の研究で定まった基準を利用してファイザー社製ワクチン接種後の計740名の抗体を調べました。  
(於：富山大学附属病院)
- ワクチン2回接種後100%の人で、抗体の「質」・「量」ともに確認されました。
- ワクチン接種後に発熱などの全身反応がなかった人や、年齢が高めの人に抗体の「量」が少ない人がいますが、「質」は基準以上でした。(調査年齢：20～69歳)
- 変異株（英国型・南アフリカ型）への抗体の「質」は従来型よりやや落ちますが基準以上でした。
- 抗体「量」の中央値は2112U/mLでした。

## ①②の成果により、

1. 抗体の「量」は感染者よりワクチン接種後が約60倍多いことがわかりました。
2. 変異株への中和効果は従来株への効果よりやや落ちますが、ワクチン接種後に獲得される抗体の「量」が多いことで、変異株を中和する「質」が補われている可能性があります。



参考：富山大学 HP より  
 文責：管理栄養士 金柿  
 監修：浦田章子 M. D.

**ワクチン接種後も引き続き  
 感染予防対策をしましょう！**



ワクチンを接種した方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、ワクチンを接種した方から他人への感染をどの程度予防できるかは、まだ研究段階です。ワクチンを接種したからといって、即日ワクチンの効果が発揮されるわけでもありません。ワクチン接種後、免疫獲得までに14日かかることされており、予防接種から2週間以上経って感染した方も67人いると報告されています（国立感染症研究所の調査、2021年6月末）。

また、ワクチン接種が徐々に進んでいく現段階では、ワクチンを接種していない方も、何らかの事情でワクチン接種ができない方も多くいらっしゃり、ともに社会生活を営んでいくことになります。

このため、ワクチン接種後も引き続き感染予防対策を継続していきましょう。具体的には、3密の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒の励行などです。

参考：厚生労働省 HP  
 文責：管理栄養士 金柿